

地域と福祉③ 学校教育と共生社会 2

学校教育の実際

前号の続きで実践例を紹介します。

<実践例①> 人権講演会...性同一性障がいについて知る 学ぶ 全学年

「男の先生？ 女の先生？」（性同一性障がいについて考える）をテーマに、低学年と高学年に分けて行ないました。ランドセルの色など、日常の身近な事例を取り上げるなど、わかりやすく親しみやすい話でした。知ることで、先入観や無知からくる差別や偏見をなくしたり、学んだことを日常に生かしていきたいと考えます。（以下の写真は学校ホームページから転載）



性同一性障がいについては、昔よりも世間一般には理解が進んではいるものの、身近にはまだまだ差別的な意識も残ります。性というのち・生き方に係っては、まさに倫理が問われる所にあります。

本時においては、マツコ・デラックスなど知っている芸能人を挙げたり、ランドセルの色の好みは男女に関わることなくそれぞれにあることなど、レッテルを貼らない身近で自然な事柄に及び、興味関心から始まり知識理解へと話が進みました。次に、講師の先生が自らの育ちや体験談を語り、知識理解の深化に及びました。さらに、「見かけはわからないが、着替えなどで悩む友達が身近にいるかも知れない、どう接したらいいか」を考える問題解決…倫理的な判断と思考、実践の場面へと続きました。そして、「広い心で…人のきもちを かんがえられる 人になってください」という一般化で講演の締めとなりました。さらに、全児童が各教室でふり返り、感想をまとめ手紙を書くことでまとめました。次にあげるのは、子どもたちの感想です。

★1年女子

せいどうつせいしょうがいをはじめてしりました。かっくにきめつけると、だれでもいやだと思いました。

★3年男子

全く男にしか見えない写真の人が女で、とてもびっくりした。でも、体が女でいいけど、仲間外れにするのは、絶対いやです。なぜかという、人間は同じだから…

★6年女子

性同一性障がいの人で「死にたい」や「自殺したい」という人が半分以上いたことが、衝撃的で私も辛くなりました。私はそれを見て、辛い思いをしている人を減らしたいと思い、そのためには私達が性同一障がいという個性を理解することが大切だと思いました。その他にも障がいや心の病気を抱えた人達が沢山いると思います。その人が困っている時に私達が助けることが大切と思いました。助けることで優しさを学びます。

このような子ども達の語録をみると、「～しない」という予防教育ではなく、豊かな心と倫理観を育む啓発教育または促進教育と呼ぶのが相応しいと考えます。まさに「いのちの存在と倫理」がここにあります。

 **4年 福祉体験をしました！**

4年生は、11月に色々な体験を通して、福祉について学習しました。

①点字を打ってみよう！

奥野先生に点字の打ち方を教えていただきながら、一人一人点字板を借りて、自分の名前やメッセージを打ちました。



「楽しい！」 「もっとやりたい！」という声が多く、点字に興味津々な

③アイマスクをして歩いてみよう！

目の不自由な人の気持ちを体験するためにアイマスクをして学校中をまわりました。



4年福祉体験
点字
アイマスク
車いす体験



一人で車いすに乗り、色々な障害物を越えてみたり、車いすに乗っている人を押して手助けをしてあげたりして車いすに乗っている人の気持ちを体験することができました。